

# ペテロの前の書

## 第一章

イエス・キリストの使徒ペテロ、書をポント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジア、ピテニヤに散りて宿れる者、二 即ち父なる神の預じめ知り給ふところに随ひて、御霊の潔により柔順ならんため、イエス・キリストの血の灑を受けんために選ばれたる者に贈る。願はくは恩恵と平安と汝らに増さんことを。三 讃むべきかな、我らの主イエス・キリストの父なる神、その大なる憐憫に随ひ、イエス・キリストの死人の中より甦へり給へることに由り、我らを新に生れしめて生ける望を懐かせ、四 汝らの爲に天に蓄へある、朽ちず汚れず萎まざる嗣業を繼がしめ給へり。五 汝らは終のときに顯れんとて備りたる救を得んために、信仰によりて神の力に護らるるなり。六 この故に汝ら今しばしの程さまざまの試煉によりて憂へざるを得ずとも、なほ大に喜べり。七 汝らの信仰の驗は、壞つる金の火にためさるるよりも貴くして、イエス・キリストの現れ給ふとき響と光榮と尊貴とを得べきなり。八 汝らイエスを見しことなけれど之を愛し、今見ざれども之を信じて、言ひがたく、かつ光榮ある喜悅をもて喜ぶ。九 これ信仰の極すなはち靈魂の救を受くるに因る。一〇 汝らの受くべき恩恵を預言したる預言者たちは、この救につきて具に尋ね査

べたり。二 即ち彼らは己が中に在すキリストの靈の、キリストの受くべき苦難および其の後の榮光を預じめ證して、何時の如何なる時を示し給ひしかを調べたり。三 彼等はその勤むるところ己のためにあらず、汝らの爲なることを默示によりて知り。即ち天より遣され給へる聖靈によりて福音を宣ぶる者ども、汝らに傳へたる所にして、御使たちも之を懇ろに視んと欲するなり。三 この故に、なんぢら心の腰に帶し、慎みてイエス・キリストの現れ給ふときに、與へられんとする恩恵を疑はずして望め。一四 從順なる子等の如くして、前の無知なりし時の慾に效はず、一五 汝らを召し給ひし聖者に效ひて、自ら凡ての行状に潔かれ。一六 録して、われ聖なれば、汝らも聖なるべし」とあればなり。一七 また偏ることなく各人の業に隨ひて審きたまふ者を父と呼ばば、畏をもて世に寓る時を過せ。一八 なんぢらが先祖たちより傳はりたる虚しき行状より贖はれしは、銀や金のごとき朽つる物に由るにあらず、一九 瑕なく汚點なき羔羊の如きキリストの貴き血に由ることを知ればなり。二〇 彼は世の創の前より預じめ知られたまひしが、この末の世に現れ給へり。二一 これは彼を死人の中より甦へらせて之に榮光を與へ給ひし神を、彼によりて信する汝らの爲なり、この故に汝らの信仰と希望とは神に由れり。二三 なんぢら眞理に従ふによりて靈魂をきよめ、偽りなく兄弟を愛するに至りたれば、心より熱く相愛せよ。二四 汝らは朽つる種に由らで、朽つることなき種、すなは



我らの罪を己が身に負ひ給へり。これ我らが罪に就きて死に、義に就きて生きん爲なり。汝らは彼の傷によりて癒されたり。二五 なんぢら前には羊のごとく迷ひたりしが、今は汝らの靈魂の牧者たる監督に歸りたり。

### 第三章

二 妻たる者よ、汝らもその夫に服へ。たとひ御言に遵はぬ夫ありとも、汝らの潔く、かつ恭敬しき行状を見て、言によらず妻の行状によりて救に入らん爲なり。三 汝らは髪を辨み、金をかけ、衣服を装ふごとき表面のものを飾とせず、四 心のうちの隠れたる人、すなはち柔和、恬靜なる靈の朽ちぬ物を飾とすべし、是こそは神の前にて價貴きものなれ。五 むかし神に望を置きたる潔き女たちも、かくの如くその夫に服ひて己を飾りたり。六 即ちサラがアブラハムを主と呼びて之に服ひし如し。汝らも善を行ひて何事にも戦き懼れずはサラの子たるなり。七 夫たる者よ、汝らその妻を己より弱き器の如くし、知識にしたがひて偕に棲み、生命の恩恵を共に嗣ぐ者として之を貴べ、これ汝らの祈に妨害なからん爲なり。八 終に言ふ、汝らみな心を同じうし、互に思ひ遣り、兄弟を愛し、憐み、へりくだり、九 惡をもて惡に、謗をもて謗に報ゆることなく、反つて之を祝福せよ。汝らの召されたるは祝福を嗣がん爲なればなり。一〇 『生命を愛し、

善き日を送らんとする者は、舌を抑へて惡を避け、口唇を抑へて虚偽を語らず、二 惡より遠ざかりて善をおこなひ、平和を求めて之を追ふべし。三 それ主の目は義人の上にとどまり、その耳は彼らの祈にかたむく。されど主の御顔は惡をおこなふ者に向ふ』三 汝等もし善に熱心ならば、誰か汝らを害はん。一四 たとひ義のために苦しめらるる事ありとも、汝ら幸福なり。彼等の威嚇を懼るな、また心を騒がすな。一五 心の中にキリストを主と崇めよ、また汝らの衷にある望の理由を問ふ人には、柔和と畏懼とをもて常に辯明すべき準備をなし、一六 かつ善き良心を保て。これ汝等のキリストに在りて行ふ善き行状を罵る者の、その謗ることに就きて自ら愧ぢん爲なり。一七 もし善をおこなひて苦難を受くること神の御意ならば、惡を行ひて苦難を受くるに勝るなり。一八 キリストも汝らを神に近づかせんとて、正しきもの正しからぬ者に代りて、一たび罪のために死に給へり、彼は肉體にて殺され、靈にて生かされ給へるなり。一九 また靈にて往き、獄にある靈に宣傳へたまへり。二〇 これらの靈は、昔ノアの時代に方舟の備へらるるあひだ寛容をもて神の待ち給へるとき、服ばざりし者どもなり、その方舟に入り水を經て救はれし者は、僅にしてただ八人なりき。二一 その水に象れるパプテスマは肉の汚穢を除くにあらず、善き良心の神に對する要求にして、イエス・キリストの復活によりて今なんぢらを救ふ。二三 彼は天に昇りて神の右に在す。御使たち及びもろもろの權威と

能力とは彼に服ふなり。

## 第四章

一 キリスト肉體にて苦難を受け給ひたれば、汝らも亦おなじ心をもて自ら鎧へ。肉體にて苦難を受くる者は罪を止むるなり。二これ今よりのち、人の慾に従はず、神の御意に従ひて、肉體に寓れる殘の時を過さん爲なり。三なんぢら過ぎにし日は、異邦人の好む所をおこなひ、好色・慾情・酩酊・宴樂・暴飲・律法にかなはぬ偶像崇拜に歩みて、もはや足れり。四彼らは汝らの己とともに放蕩の極に走らぬを怪しみて譏るなり。五彼らは生ける者と死にたる者とを審く準備をなし給へる者に己のことを陳ぶべし。六福音の死にたる者に宣傳へられしは、彼らが肉體にて人のごとく審かれ、靈にて神のごとく生きん爲なり。七萬の物のをはり近づけり、然れば汝ら心を慥にし、慎みて祈せよ。八何事よりも先づ互に熱く相愛せよ。愛は多くの罪を掩へばなり。九また吝むことなく互に懇ろに待せ。一〇神のさまざまの恩恵を掌とる善き家司のごとく、各人その受けし賜物をもて互に事へよ。一一もし語るならば、神の言をかたる者のごとく語り、事ふるならば、神の與へたまふ能力を受けたる者のごとく事へよ。是イエス・キリストによりて事事に神の崇められ給はん爲なり。榮光と權力とは世々限りなく彼に歸するなり、アアメ

ン。二愛する者よ、汝らを試みんとて來れる火のごとき試煉を異なる事として怪しまず、三反つてキリストの苦難に與れば、與るほど喜べ、なんぢら彼の榮光の顯れん時にも喜び樂しまん爲なり。四もし汝等キリストの名のために謗られなば幸福なり。榮光の御靈すなはち神の御たまなんじらの上に留まり給へばなり。一五汝等のうち誰にても或は殺人、あるひは盜人、あるひは惡を行ふ者、あるひは妄に他人の事に干渉する者となりて苦難に遭ふな。一六されど若しキリストアーンたるをもて苦難を受けなば、之を恥づることなく、反つて此の名によりて神を崇めよ。一七既に時いたれり、審判は神の家より始るべし。まづ我等より始るとせば、神の福音に従はざる者その結局は如何にぞや。一八義人もし辛うじて救はるるならば、不敬虔なるもの、罪ある者は何處にか立たん。一九されば神の御意に従ひて苦難を受くる者は、善を行ひて己が靈魂を眞實なる造物主にゆだね奉るべし。

## 第五章

一われ汝らの中なる長老たちに勸む(我は汝らと同しく長老たる者、またキリストの苦難の證人、顯れんとする榮光に與る者なり)二汝らの中にある神の群羊を牧へ。止むを得ずして爲さず、神に従ひて心より爲し、利を貪るために爲さず、悦びてな

し、三委ねられたる者の主とならず、群羊の模範となれ。四さらば大牧者の現れ給ふとき、委まざる光榮の冠冕を受けん。五若き者よ、なんぢら長老たちに服へ、かつ皆たがひに謙遜をまへ。神は高ぶる者を拒ぎ、へりくだる者に恩恵を與へ給ふ。六この故に神の能力ある御手の下に口を卑つせよ、さらば時に及びて神なんぢらを高うし給はん。七又もろもろの心勞を神に委ねよ、神なんぢらの爲に慮ばかり給へばなり。八慎みて目を覺しをれ、汝らの仇なる惡魔、ほゆる獅子のごとく歴廻りて呑むべきものを尋ぬ。九なんぢら信仰を堅うして彼を禦げ、なんぢらは世にある兄弟たちの同じ苦難に遭ふを知らばなり。一〇もろもろの恩恵の神、すなはち永遠の榮光を受けしめんとして、キリストによりて汝らを召し給へる神は、汝らが暫く苦難をつくる後、なんぢらを全うし、堅うし、強くして、その基を定め給はん。

二 願はくは權力世々限りなく神にあれ、アアメン。三 われ忠實なる兄弟なりと思ふシルワノに由りて、簡單に書き贈りて汝らに勧め、かつ此は神の眞の恩恵なることを證す、汝等この恩恵に立て。三 汝らと共に選ばれてバビロンに在る教會、なんぢらに安否を問ふ、わが子マルコも安否を問ふ。四 なんぢら愛の接吻をもて互に安否を問へ。願はくはキリストに在る汝ら衆に平安あらんことを。